

イルムの里「通学合宿」

■ 事業のねらい

子どもたちが一定期間親元を離れて学校に通いながら、集団宿泊生活や各種の体験活動を行い、基本的生活習慣・生活リズムを身に付けるとともに、思いやりの心や自主性、協調性を養う。



- 実施日 平成23年11月13日(日)～19日(土) 6泊7日
- 参加対象 深川市立音江小学校 5年生
- 参加実績 参加者：13名
 深川市立音江小学校5年生児童＝13名
 男子＝7名 女子＝6名
 運営協力者：北翔大学生涯スポーツ学部学生8名
 講師：北空知若手女性農業者サークル昴(うづら)4名
 ゆーすくる協力会(深川岳悠会)2名
- 備考 活動場所：北海道立青年の家、深川市立音江公民館
 共催：深川市立音江小学校、深川市立音江小学校PTA
 後援：深川市教育委員会
 音江地域青少年健全育成連絡協議会
 北翔大学生涯スポーツ学部

1 事業実施の背景

本事業は、平成14年に、集団生活を通して基本的生活習慣の定着と思いやりの心を育むことを目的に「イルムの里づくり通学合宿」としてスタートした。地域の教育力を取り入れた様々な体験プログラムを組み込み、平成19年度から北翔大学の協力を得て開催している。

2 プログラムデザイン

受付 11月13日(日) 15:00		解散 11月19日(土) 15:00															
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21:30	
13日(日)	起床	班会議	朝食					出合いの集い 刺エントーン	合宿準備	夕食	合宿プロ① 「交流ゲーム」	自由入浴	就寝				
14日(月)	起床	班会議	朝食	学校生活				自主学習	自主学習 洗濯	夕食	合宿プロ② 「クライミング」	自由入浴	就寝				
15日(火)	起床	班会議	朝食	学校生活				自主学習	自主学習 洗濯	夕食	合宿プロ③ 「大学生企画」	自由入浴	就寝				
16日(水)	起床	班会議	朝食	学校生活				食育授業	調理実習	夕食会	合宿プロ④ 「地域交流活動」	自由入浴	就寝				
17日(木)	起床	班会議	朝食	学校生活				自主学習	自主学習 洗濯	夕食	合宿プロ⑤ 「もらい湯」	自由入浴	就寝				
18日(金)	起床	班会議	朝食	学校生活				自主学習	学生リーダーへの お礼の品づくり	キャンドル のつどい	自由入浴	就寝					
19日(土)	起床	班会議	朝食	清掃・ 片付け	昼食づくり ・昼食会		ふりかえり 保護者懇談会	別れのこと									

■ アクティビティについて

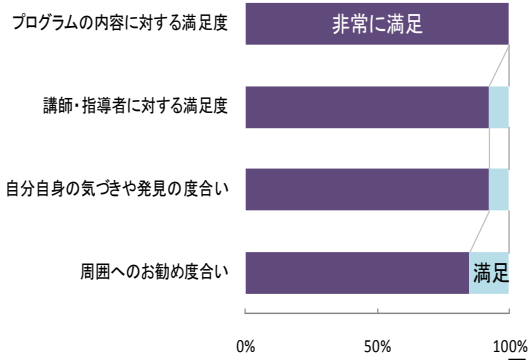
■ 意図

- 地域の指導者による合宿プログラムや学校行事でお世話になっている地域の方々を招待する夕食会、通学合宿経験者の中高生による活動支援等、各プログラムをとおり、地域の方々との交流を深める。
- 下校後は、自主学習の時間を十分に設定して学習習慣の定着を図るほか、プログラム全体をとおして、基本的生活習慣の定着を図るよう支援を行う。

■ 留意事項

- 学校、家庭、運営協力スタッフとの連絡体制を密にする。

3 活動の様子



■ 当日の様子

- 1日目は開会式の後、学生リーダーが館内を案内しながら、青年の家のきまりや食堂等の利用の仕方について説明。その後は、青年の家職員の進行で、「交流ゲーム」を行い、児童と学生リーダーの交流を深めた。
- 2日目の夜は、ゆるすくる協力会である深川岳悠会の方々を講師に招き、スポーツクライミングを体験した。
- 3日目の夜は、学生が企画した「スポーツレクリエーション」を実施。学校では体験できないフロアカーリングは、児童に大変好評であった。
- 4日目の午後は、北空知若手女性農業者サークル昴（うづら）を講師に招き、食育授業を行った。その後は同講師の指導で深川産黒米を使ったパエリアを調理し、学校行事等でお世話になっている地域の方々を招待しての夕食会を実施した。地域の方々は、児童の手作りの料理を堪能していた。その後は、通学合宿経験者である音江地区在住の高校生の進行によるビンゴ大会を楽しんだ。
- 5日目の夜は、通学合宿の恒例プログラムとなった「もらい湯」を実施した。音江地区の協力家庭に2～3人ずつ訪問し、入浴させていただいた。入浴後は、受入先のみなさんと語り合いながら、楽しい時間を過ごした。
- 6日目は、通学合宿経験者である音江中学校の「ちゅぼら隊（中学生ボランティア体験隊）」の協力で、学生リーダーへのお礼の品を製作した。その後の「キャンドルのつどい」では、穏やかな雰囲気の中で一週間の活動を振り返った。つどいの最後には、児童は涙を流しながら、学生リーダーへ感謝の気持ちを歌や言葉で伝えていた。
- 最終日は、保護者の方々が豚汁を、児童がおにぎりをそれぞれ調理し、昼食会を実施。昼食をとりながら、保護者を交えて、児童と学生リーダーで1週間の通学合宿をふりかえった。

■ 参加者の声

- 満足度については左表の通り。
- 参加者の感想
 - ・早寝早起きをするという目標を立ててできたので、家に帰ってからも実践したい。
 - ・学生リーダーとの交流が楽しかった。 ・クラスメイトとの仲が深まった
 - ・すべてのプログラムが楽しかった 等

4 事業評価



■ 評価方法・重点

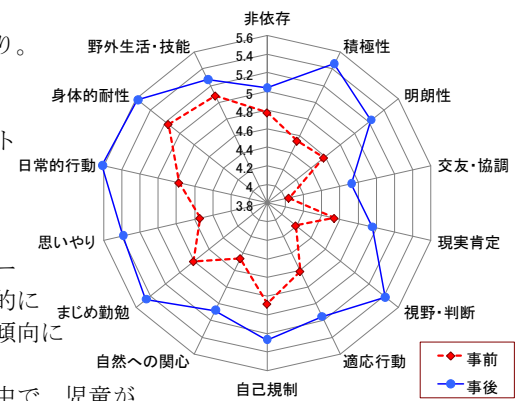
「積極性」、「日常的行動」、「視野・判断」、「思いやり」の項目を中心にアンケート及び観察により、評価を行う。

■ 参加者の変容【IKR調査結果】

- アンケートの集計結果は右グラフの通り。
- 「視野・判断（1.2ポイント増）」
「積極性（0.9ポイント増）」
「日常的行動（0.8ポイント増）」
「思いやり（0.8ポイント増）」が特に大きな伸びを示している。

■ 結果の分析・考察

- 1週間という長期間の宿泊で、多様なプログラムを体験し、学生リーダーの支援をもとに日常活動についても自主的に取り組んだことにより、どの項目も増加傾向にある。
- 学習や清掃などの活動を継続的に行う中で、児童が主体的に判断しながら取り組めるようになったことから、「視野・判断」「積極性」の伸びが見られたと考える。
- 調理を始め、級友と協力をしながら活動に取り組んだことにより「思いやり」について伸びが見られたと考える。
- 帰所後に50分の学習時間を設定し、宿題のほか、自学自習も行わせたことや、起床消灯時間を含め、毎日規則正しい生活を送り、その大切さについて感じる事ができたため、「日常的行動」に伸びが見られたと考える。



5 まとめ

■ 成果

- 児童の主体的な活動を促すための働きかけや声かけ等の日常生活全般に係る支援を学生リーダーが中心に行い、青年の家職員はその学生リーダーに常に助言を与える形で間接的に児童への指導を行ったため、児童と学生の信頼関係を構築することができた。
- 昨年度の終了時に、学生リーダーと青年の家職員で運営上の課題等を共有した。今年度については、事前にこれらの課題解決のために方策を見出し、実際の運営に役立てることができた。

■ 課題・今後の方向性

- 年度ごとに学校のニーズ、学級担任の方針、保護者の願い、児童の個別の課題を解決するためのプログラムを編成するために、実行委員会会議をより一層充実させる必要がある。
- 「地域で子どもを育てる」という趣旨のもと、地域との連携のあり方について、さらに模索していく必要がある。